

特別養護老人ホーム 湯梨浜はごろも苑

1 基本方針

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って良質の介護福祉サービスを提案し、個別ケアを実践する。

良質の介護・福祉サービスを提供することにより、利用者がその有する能力に応じ、安心で安全な自律した日常生活を営むことができるよう支援する。

地域住民との交流を深め、地域に必要とされ、愛され信頼される施設づくりに努める。

2 利用者の状況（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

（1）入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和 6 年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
120人		117人	37人	58人	6人	16人	36人	39, 530人	90. 25%	96人
5年度	120人	114人	50人	47人	0人	18人	29人	40, 360人	91. 89%	117人

（2）利用者の介護度別人員

性別	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
男 性	0人	0人	7人	12人	7人	26人
女 性	1人	0人	19人	29人	21人	70人
計	1人	0人	26人	41人	28人	96人

（平均介護度3. 99）

3 事業の実施状況

（1）経営改善・基盤の確率

- ア 介護職員等の退職が相次ぎ、職員の補充もままならないまま欠員によるローテーション勤務を組むことが困難になり、結果的に令和 7 年 2 月から 2 ユニットを休止した。これにより、稼働率が低下して、年間平均90. 2%と目標を大きく下回った。
- イ また、稼働率の向上を目指すため、令和 6 年 8 月より空床利用型の短期入所のサービスを開始し、将来的に施設入所につなげるように努めた（延べ 4 7 人が利用）。
- ウ 利用者の重度化による入院、看取りなどによる死亡（退所）者の増加、入所申し込み者の減少等も傾向として見られることから、病院連携室や居宅介護支援事業所、老健等への積極的な P R 活動及び緊密な連携により、待機者の確保、退所から次の入所の期間短縮など、スムーズな入所につなげるように努めた。
- エ 入院の長期化を回避するため、利用者の体調異変の早期発見、早期処置、速やかな受診に努めた。さらに、入院先の医師と定期的に面談し、施設への復帰または退所の早期の見極めを図った。

(2) 個別ケアの充実

ア 毎月のユニット会議において、ユニット間でのサービス相互評価や虐待の芽チェックシートを活用したケアや接遇等を話し合い、改善や評価を繰り返し実施し、利用者へのケアの質の向上に努めた。

イ ユニットごとに認知症のケース検討を行い、利用者一人ひとりと向き合い、「自分らしく」苑での生活が送れるように、個別ケアの充実を図った。

ウ 苑での生活が少しでも楽しみとなるよう、各ユニットやフロアごとに工夫を凝らしながら行事やレクリエーションを毎月企画して取り組んでおり、利用者も楽しみにされている。

(3) サービスの質の向上

ア 新型コロナウイルス感染による重篤化を防ぐため、消毒や標準予防策を実施し感染予防に努めたが、結果として、利用者12名、職員18名の陽性者となった。

イ 目指す職員像を示し、それを基にステップアップ計画として職員一人ひとりが目標を設定し、上司等と面談しつつ振り返りと目標達成度を確認した。

ウ 各ユニット職員間で緊密に報告・連絡・相談しながらユニット運営を行うとともに、定期的に家族に写真等の送付とともに近況報告を行い、信頼関係の構築に努めた。

(4) 人権の尊重

ア 身体拘束及び虐待防止研修を実施し人権意識を高めるとともに、利用者の人権や尊厳を守る支援を継続して行ってきたが、身体拘束（虐待事案）及び不適切な介護として、湯梨浜町から指摘を受けた。

イ 職員の人権意識の希薄さや虐待の疑いのある事例を認知した際の通報のあり方が問われ、研修の実施等により再発防止の取組を職員に徹底させた。

ウ さらに面談や「虐待の芽チェックリスト」を定期的の実施し、自身でケアの振り返りを図るとともに、不適切ケアの早期発見、情報共有により、この段階での解消を図ることに努めた。

(5) 介護事故予防の推進

ア 「眠りスキャン」などのICT(情報通信技術)機器やリフト等の福祉用具の活用により身体的、心理的負担軽減を図るよう努めた。ICT機器を導入することにより、一層の目配り気配りをしながら安全・安心な生活が送れるよう取り組んだものの、骨折事故が昨年度と同じ2件発生した。また、マニュアルの遵守を怠ったことによる誤薬も31件発生した。

イ こうした事故の発生の都度、検証会議を開催し、事故原因の分析、再発防止策等について、検討を行った。

(6) 社会貢献の推進

ア 地域住民、福祉団体等の各種会議・研修に「はごろもホール」を開放し、近年利用が増大している（法人内30件、外部66件）。

イ また、近隣地区と緊急時相互協力協定を結び、災害時等の避難場所・福祉避難所として「はごろもホール」を提供するとともに、高校生の施設見学、県新規採用職員の職場体験、子どもの介護現場への視察、介護実習など可能な限り受け入れを行った。

ウ さらに湯梨浜町の要請により、地域の高齢者のサロン活動等へ機能訓練職員を派遣するなど、地域とのつながりを深めることに努めている。

(7) 働きやすい職場環境づくり

ア リフトや福祉用具等を活用し、「持ち上げない」「抱えない」介護を徹底し、一層の腰痛予防と介護負担の軽減に努めた。また、「眠りスキャン」の利用が異変の早期発見と職員の負担軽減につながっている。

イ オンラインによる研修（ジョブメドレー）を活用し、人材育成・定着に取り組んだものの、特に昨年12月から本年3月にかけて、多くの職員の退職となってしまった。職員の体調などの個人的な理由によるものに加え、職場への定着前の辞職、職員関係に起因すると思われるものも含まれ、この反省を踏まえ、一層の風通しの良い職場づくり、丁寧な人材育成に努める。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
鳥取県立総合看護専門学校	R6. 10. 7～R6. 10. 10	4人	4人
鳥取社会福祉専門学校	R6. 6. 24～R6. 7. 8	1人	10人
	R6. 8. 26～R6. 9. 27	1人	21人
鳥取県庁（新規採用職員体験研修）	R6. 11. 21～R6. 11. 22	2人	4人
	R6. 11. 28～R6. 11. 29	2人	4人
計		10人	43人

(2) ボランティアの受入実績

桔梗の会（生け花）個人3名 9月・12月3月

絵手紙クラブ 個人1名 12月～3月（1カ月当たり10名程度）

ミュージックケア（音楽療法）

個人2名 11月・12月・2月・3月（1カ月当たり10名程度）

5 付帯事業

(1) 短期入所生活介護事業

年度	実人員	延人員
令和6年度	4人	47人

（平均稼働率0.11％）